

土木工学

編者 土木工学
第十二卷

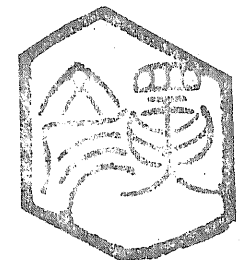
河川協介
茂庭忠次郎

SHC
T-12
3265

上水工學正誤表

頁	行	誤	正
6	下 5	他の淨化方法を	他の淨化方法と
10	下 7	一定の	一定で
11-12		pH	pH
	下 5-3	上水協議會の……採用せられて居る	一般に採用法が廣く用ひられて居る
13	下 5	有機物	有機物
17	9	鐵管類	鐵管類
18	12	培養とを	培養時間とを
13	13	37°C	37°C
19	5	我國に於ける實例	我國に於ける藻類發生の實例
9	9	アステリフネラ	アステリフネラ
39	12	市町村會の	市町村等々の
43	5	船舶。給水	船舶給水
47	最上	第四章	第四章
48	10	(給水量)(圖表参照)	(給水量圖表参照)
59	第3圖		左側の A. B. C. D. E. F を削る。
61	6	一方透過効力	一方天然透過効力
66	12	鐵口管と設ける場合	鐵口管を挿設する場合
66	12	夫は	夫々
69	下 1	電動機	電動機
69	6	(Counter weight)	(Counter weight)
70	下 9	取入れる	取入れる
71	9	引水量の節約に	引水量の調節に
71	17	能力發揮し難き	能力を發揮し難き
74	下 1	完璧せしむる爲に	完璧せしむる爲に
77	14	不透性地盤	不透性地盤
79	3	馴染は	馴染部分は
85	9	強度	力
	12	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{12}$
	下 4	合理的断面を	合理的断面の一例を
	6	第 16 圖 A. B の	第 16 圖の
90	下 5	貯水池	貯水池
94	下 7	50m	50 m
97	5	地盤	地盤
97	8	(Casing)	(Casing)
99	8	又は金製	又は鋼金製
100	下 5	揚水量	一日揚水量
106	6	(第 131 圖)	(第 31 圖)
112	2	埋戻深度	埋戻深度
118	3	細菌等の如き	細菌等の如き
123	1	Precipitation	Precipitation
124	3	此の淨化作用の行はるゝ	しかも此の淨化作用の行はるゝのは
137	11	均等程度	均等係數
149	1	液に	液に
	下 9	液の復活現象	細菌の復活現象
	下 1	(二)	(3)
156	2	曝氣エーレーション構造	エーレーション(曝氣)構造
160	6	P	P
206	圖面説明	有効鐵板	有孔鐵板
242	7-8	勿由……前述の理	以上は式を以て消火水量を算出する一例として挙げたものであつて、前述の理由からしても消火
244	7	甲の市は 1 の	甲の市は A の
249	下 2	(50m)	(55m)
250	6	Socket & spigot Joint	Socket & spigot Joint
	13-14	麻(ヤーン Yarn)塊給糸給モルタル	麻(ヤーン yarn)塊給糸給モルタル
253	13	球狀接手(Ball Joint)は第	球狀接手(Ball Joint)は第 112
	下 6	(Expansion & Contraction joint)	(Expansion & Contraction Joint)
258	下 3	鐵管	鉛鐵管
274	2	(Semi-automatic welding)	(Semi-automatic welding)
	10	(Solid drawn pipes)	(Solid drawn pipes)
275	下 1	第 119 圖鐵管接手	第 119 圖
279	1	(基本第一表)	普通ベル型接手管表單位寸法mm 重量kg
281	1	300cu	300 mm
	5. 14	異管	異管
291	3	高架水槽配水塔	高架水槽、配水塔
294-296	6	表	寸法の單位は mm とす
297	6	第 圖	圖
300	14	水塔が連絡して	人家が連絡して

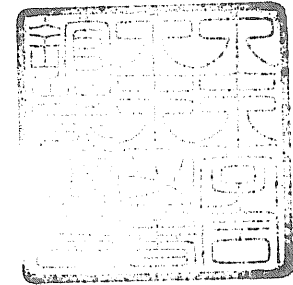
昭和 40年 7月 15日
寄贈者 玉木寅彦



名著100題圖書
登録 昭和 40年 7月 19日
番号 第 3265 号
社団法人 土木学会
附属 土木図書館

學 工 水 上

著 介 協 口 河



東 京

版 房 書 磐 常

目 次

第一章	總 論	1
第一節	上水道の目的	1
第二節	上水道沿革の概要	1
第二章	水の性質	8
第一節	概 説	8
第二節	水の物理的性質	8
	色—濁り—臭味—温度	
第三節	水の化學的性質	11
	反應—硬度—亞硝酸—硝酸—アンモニア—	
	クロール—有機物—鐵分—マンガン—鉛—	
	炭酸—溶融酸素—固形物	
第四節	水の細菌的性質	17
第五節	微生物的性質	18
	協定上水試験法	
第三章	給水量	38
第一節	概 説	38
第二節	給水區域	38
第三節	給水人口	39
第四節	給水量	42
第四章	水 源	51

第一節	概 説	51
第二節	地表水水源	51
	屋根水—河川水—湖水の水—貯水池水	
第三節	地下水水源	57
	浅井水—深井水—湧水—埋渠集水	
第五章	水源取水構造	64
第一節	河川取水構造	64
	取水塔による方法—取水門による方法—取水管による方法	
第二節	湖水々源取入構造	72
第三節	貯水池構造	73
	貯水池の容量決定—堰堤—土堰堤—コンクリート堰堤	
第四節	浅井構造	92
第五節	深井構造	95
第六節	湧水集取構造	101
第七節	集水埋渠構造	106
第六章	浄水法	114
第一節	概 説	114
第二節	河川の自浄作用	115
第三節	エーレーション	116
第四節	沈澱法	117
	普通沈澱法—化学沈澱法—機械的沈澱法	
第五節	濾過法	123

	緩速砂濾法—濾過速度—濾過砂—其他の濾過材料—濾過に要する全水頭—砂面上の水深—間歇濾過法—二重濾過法—多段式濾過法—急速濾過法	
第六節	薬品浄水法	142
	晒粉法—純鹽素による方法—硫酸銅による方法	
第七節	電氣による浄水法	151
第八節	軟水法	152
第九節	鐵分及びマンガン除去法	154
第十節	家庭に於ける水の浄化法	154
第七章	浄水構造	156
第一節	曝氣(エーレーション)構造	156
第二節	沈澱池	160
	容量形状及び數—構造—引入、引出装置—排水管及び溢流管	
第三節	緩速濾過池	167
	必要なる濾過面積、池の形状及び數—構造—引入装置—調整井—其他の附屬管—池の配置特種濾過池	
第四節	急速濾過機	191
	急速濾過機の種類及び形状—構造—管渠—濾過槽及び管渠の配置—引入、引出量の調整	
第五節	雑浄水構造	201
	鹽素殺菌機—オゾン浄水機—紫外光線浄水機—家庭用浄水器	
第八章	送水施設	207

4	上 水 工 學	
第一節	概 説	207
第二節	送水の方式	208
第三節	送水線路の選定及び構造	208
第四節	送水線路の附屬設備	216
第九章	配水施設	222
第一節	概 説	222
第二節	配水池	223
	配水池の容量—構造—配水池の位置	
第三節	配水塔	232
第四節	高架水槽	234
第五節	氣壓水槽	239
第六節	配水線路	240
第七節	給水管	245
第十章	水管類及び其の屬具と水管の敷設	246
第一節	概 説	246
第二節	水管類	246
	鑄鐵管—水道用鑄鐵管規格—高級鑄鐵管— 鋼管及び鍊鐵管—鉛管—木管—鐵筋コンク リート管	
第三節	屬 具	288
	制水瓣—排氣瓣—泥吐瓣—安全瓣—逆止瓣 減壓瓣—消火栓—自働閉止瓣—ジョンソ ン 瓣—分水栓—止水栓—水道用水栓規格—共 用栓	

第四節	水管の敷設	299
	敷設の位置—敷設の深さ—敷設作業—水管 橋—伏越	
第十一章	量水器	312
第一節	概 説	312
第二節	大量用量水器	312
	ベンチユリ—メーター—ウオルトマン式量 水器	
第三節	少量用量水器	314
	平圓盤式量水器—翼車式量水器—翼車式量 水器に關する規格	
第十二章	ポンプ及び原動機	320
第一節	ポンプ	320
第二節	原動機	322

—(目次終)—